



古みよをりる杖

月とれハ悲し一年にきよしぬし力
しこく更て糸おありぬ村の月
名月やみらけらよのおしとる
市四らうきこの月のあてきて泣きさうり

新字法

はよきうとーおのさといふお更て
萩荒くおしほきも又はきれ
あきしよしよぬあきをそ初お葉
を笑しよさの粉しよ小菊お咲よる繁
し母日の村よきしよのゆいぬし卵
みよ中一免者ゆく遠来くけ

こく秋や神 寥松

おくあやきく 一茶

あすの夜月ん

あつと八月の事

古々の秋風

さくけ版六巻



乃七秋月某のぶたのちせ勢 對翠

香推まよて

後松一もれて 後松 著也

まくしや神の秋

松ひと木

そののちと

これ秋の 五英

花

おのの妻や

サ修めうらて

崎りつら 三驛

あり合のうら

極もる 極うれ 田翁



秋

水りよんて月と葉おむ

十々川 乙ら 秋華

啼もよんて米らう親

アムムム 秋めて

イヨ 幸事

ねくまも

あまこを秋の替

新うらに 清風

さひまも 宿中 雪何

まはもるれり秋乃くれ

此花のしんてい 養子南



火二

若の原さきる 宗吉

若乃さきるさきる

ふりさきる 柳の程さく

丁のさき 柳井 芥和

ひのさき 柳の程さく

思のさき 塩飽 鳥院

部の子のさき 柳の程さく

芒のさき 万吉友

言内

ゆのさき 柳の程さく

奥の山さき 柳の程さく



秋二

三之秋

新米のひらき 柳の程さく

宗吉

又 深きや 終秋さき 柳の程さく

全

ふりさき 柳の程さく

古市 馬本

さき 柳の程さく

原工

秋三

ふりさき 柳の程さく

其雲

さき 柳の程さく

百葉

柳の程さく

明 柳の程さく

松本

柙ちりて甚しく是より
一貫
衆さこふちりや丹所も柙ちる
馬來

柙待

柙待とらふまのす
本後外
化徠
柙待や鳥糞をきく古在
百恭

銀漢

木の末よりわらもは天の川
牛又
銀漢すきつれて言へ
千玉

墓糸

糸何れも糸糸子流るる墓糸
湖月

七夕

流るる七夕をきく流るれ
君行

玉成

子田

玉成

護山

本禮

鴉好

蟻賢

士芳

秋の日の陽もつやを住寺 君竹

萩 三

おぼろけの秋の夕に萩の寺 松山 柳下亭

花のよもや小萩の人ある萩の寺 雲 松江 老眼

夕のよもや萩の寺 雲 小松の寺 士方

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 弁眉

汁のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 鶴好

鶏 鳴子

山崎のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 羅堂

山崎のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 里松

立秋 天ノ川

あまのいのすもや秋の夕の小松 松山 万枝

秋の夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

木槿

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

夕のよもや萩の寺 雲 の萩の寺 千和

奇 華

煙くねと花ともあはれ香の中

城野再

まのカタヤヤとくくく人もあの人

アコ

藁堂

あはれ香きよきよきよ湖の光に

一技段

川 璣

料の戸やけりけりけりけりけり

約うぬハ咲くもふふの一船に

稻妻 番椒

いあつらやゆらゆらと舞く山の雪

志 夢

深きらけりけりけりけりけり

翰 友

市々それと後のはらけりけり

テニ

可 諾

一

あはれ木ハ名無し一木

圃 久

七文 踊

七々のゆめをききききききき

志 夢

七々のやと年ととととととと

あはれあはれあはれあはれあはれ

千 和

男入 川 麻

男入やゆめももももももも

琴 春

あはれあはれあはれあはれあはれ

朗 光

あはれあはれあはれあはれあはれ

栞 嫌

後鳥羽

ついでにうらもくもくをいそよそ

芥和

下切のあまのうらもくもくをいそよそ

志也

夕日のあまのうらもくもくをいそよそ

さうきりてきりくハ略の夕のうらもくもく

晋和

あまのうらもくもく

あまのうらもくもくをいそよそ

志也

菘の白きうらもくもくをいそよそ

湘光

月影のうらもくもくをいそよそ

連庫

月のあまのうらもくもくをいそよそ

志也

虫

雨のあまのうらもくもくをいそよそ

儿滝

蛙のうらもくもくをいそよそ

万利

かきふのうらもくもくをいそよそ

連庫

あつきのうらもくもくをいそよそ

文和

ひしきりてきりくハ略のうらもくもく

一走

秋川

引板のうらもくもくをいそよそ

翰友

まきのうらもくもくをいそよそ

晋和

登のうらもくもくをいそよそ

アコ 永風

霧のしほてしほふくし秋の川

アコ 五朗

芒

ハミむくくし芒ハふしほくける

芥和

あすかりく茶さくぬるるは霧吹

几璿

今とまゐるあつた海古よすしきか

万村

凡の芒月のぬくふけはうりこ

東厚

ゆるゆるさかふさのこもへたふすな

杉丈

声くもこえんは芒をぢり小舟

竹傷

まぬれ終よこぢりすもあふ

菊明

ふそあけハせよまゝかば芒が

角カ

角カとり朝良のあかのほくうれ

氏雪

朝良後ひすくもあゆり角カを

全

すけら角カえぬらふは交り

震村

川とヤ霧の中きる銀かた

百茶

まきうられすくも色くヤ侍の馬

氏雪

氣こまのやきハ日あをつくるも

鹿村

校おすのさりりきしおの霧

桐山

霧のしほて桂のまのゆる山後うれ

可お

ささやう

阿多らのや機やうのささやうのささ

藤薙

三中

秋のささ

ささやうのささやうのささやうのささ

則丘

三中

秋のささやうのささやうのささやうのささ

百茶

秋のささやうのささやうのささやうのささ

菊裡

秋のささやうのささやうのささやうのささ

別丘

秋のささやうのささやうのささやうのささ

湖月

八朔

八朔ヤ人のささやうのささやうのささ

蓋終

八朔の海をささやうのささやうのささ

化徒

稲薙

いさむしろ秋は日もとくかたれ

文友

二日月ハさのささやうのささやうのささ

則丘

日ささやうのささやうのささやうのささ

朗光

行ささやうのささやうのささやうのささ

至光

ささやうのささ

秋くささやうのささやうのささやうのささ

文明

庭をめぐりて西のふりさく桔梗の形
 花雲 閑良
 夢みる〜 かくれち〜 小桔梗嘆
 花雲
 丁〜 ①の〜 早〜 ぼ〜 けてさく桔梗
 魚井
 秋の枯〜 木の十陰乃桔梗うら
 馬系
 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜
 免六
 丹丸隅と〜 桔梗を〜
 祇山

夢しのせ

夢しの心 後田を〜 へ〜 へ〜
 一貫
 鞠毎子 赤方志く〜 ち〜 ち〜
 朗光
 秋もや〜 かく〜 ち〜 ち〜 ち〜
 菊窪

八月 五月 一

ハ〜 や〜 堀〜 と〜 風〜 ち〜 井〜 の〜 夢
 儿 澄
 ハ〜 や〜 す〜 り〜 ぬ〜 ら〜 う〜 又〜 ち〜 ち〜
 夢也
 ハ〜 月〜 の〜 あ〜 さ〜 そ〜 う〜 ち〜 り〜 の〜 夜
 アコ 後洞
 お〜 徒〜 ハ〜 ち〜 一〜 月〜 次〜 の〜 花〜 う〜 ち〜
 夜中 非常友
 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜
 晋和
 秋の月 樹〜 の〜 下〜 も〜 氷〜 る〜 ち〜 と
 季成

秋 夢

ち〜 の〜 り〜 の〜 ち〜 又〜 板〜 戸〜 ひ〜 ち〜 や〜 林〜 の〜 夢
 若 鈴
 秋の〜 くれ〜 け〜 ぬ〜 く〜 お〜 も〜 ち〜 ち〜
 萃 陽

まのあつみの形のも枝の夕う部

如蒙

聖分 物ま

目のまるとまきやゆかたの夜床

晋和

あつかうしてまきよふまきう太山の樹

東原

物まきよ又抱きる粗のまきんうか

若也

物まきよ日の出る山まきまきう

夜中

一代

あつかまきよむすひうけまきまき

儿孫

物まきよや煙うまきく敷の度

黄臺

詠歌

まき畑のまきよひもまきやまき羅次

天垂

丁 諸

初色千一とまきまきあつ波まき

芥和

物まきよハアまきまきふ門田うか

千和

二交三交丁まきまきまき酒まき

青化

丁うまきまきまきまきまきまき

米因

丁のまきまきまきまきまきまき

画川

丁まきまきまきまきまきまき

五朗

夕まきまきまきまきまきまき

若也

まきまきまきまきまきまき

万枝

物まきまきまきまきまきまき

儿孫

片らうららんあけきこハ思ひうを

一 鷗

荒野

帆ちり一航りやる母のほしう阿

青化

あさうのハ盛のこへぬ子野一か

華陽

ふ母かへんくハまきこり新賣

竹丸

落水

暁やなほくさひ色一水のま

竹友

山雀の歌さすのこころやと一あ

護山

五位はる八雲よかくれてる一水

五朗

雀のほの日に生きたるあハあこ一あ

文和

空軒

空軒ふも月夜の中なる小あま

朗完

空軒や打ふ草もこハ秋のま

蓋流

草

月すらう一洗ひとる公龍のいも

至光

翔家の小草やふかる戸口外一山

梅万

放生會

ねうけや雀をこころへ入る月夜

蘿外

子のこく枝も掃や放しる

鷺洲

文鳥渡

夜の光ハある程もあつた

霞彦

葉山子

山ささけのうらみかゝり

亀井

ささけのうらみかゝり

牛又

秋入るにふたふた

三巻

下巻

海客のうらみかゝり

霞村

ささけのうらみかゝり

国彦

ささけのうらみかゝり

守雄

ささけのうらみかゝり

化待

長月

長月の中へ

一貫

長月の中へ

雨曉

長月の中へ

竹燈

長月の中へ

田車

長月の中へ

太柏

菊合

うらみかゝり

菅六

うらみかゝり

鹿本

うらみ

出く行くももぬさの路いへて
山々の秋を高くれはての木
とやうな 秋の風をよむる木
さう月もさうな風をよむる木

材

後集し 若や山柿をよむ

九月廿

李 徑

久き母の赤くも秋のちうき

南ののこ

吞 鳥

那人天のこ入もさうて葎の秋

晋 和

眼うさうにぬさの雲はきり我

羅 堂

梅もさ

四月もすさ木の中う梅もさ

太 柏

くみさうさう行く梅もさ

蒼 竹

さうの急あつ倍うあつ梅もさ

逸 史

りあつてすさやさあ梅もさ

晋 和

紅葉輯

ち山もさうさすさうもさ

周 馬

月の夜ハ秋のさうさ

逸 史

る葉輯すささうさ

毛 六

和寒

ちんちんや秋のつれも定の月 雨降

れんちんや庭のつれも志むる日の影 毛六

ちんちんや若草まゝ実の入るおの音 幽松

れんちんや仕舞ものしらぶりの聲 栗木

ちんちんや秋おのや登りぬのねの声 蒼波

文にちんちん

ちんちんやあや茶のあを降るあや 毛六

ちんちんや口のあやや登りの記 徳島 下

あやちんちんや一木に登るあや 国彦

栗木

ちんちんやあや白のちんちん 守州

栗木のあや後にも登るく月の入 徳 白英

ちんちん栗木あやつらそ夜の棲 花陽

栗木のあや司とまゝらんく月の栗 子田

栗木のあやあやせまるや栗の心 詩文

栗木のあやあやあやあやあや 若 松木

栗木のあやあやあやあやあや 若 無滴

栗木のあやあやあやあやあや 露亭

栗木のあやあやあやあやあや 知水

後の月

後の月人とも斗よるをさへ也 月耕

あつたゆいづれ

そや冬のやまをさへすもあけれ 朗光

川来やいづれはまみ海を渡る 豫西案 昌国

去夜 昇

あつた夜のいづれをさへぬれ 天画

あつた夜のいづれをさへぬれ 花陽

いづれ

あつた夜のいづれをさへぬれ 大柏

あつた

あつた夜のいづれをさへぬれ 鶴好

あつた夜のいづれをさへぬれ 士せろ

あつた夜のいづれをさへぬれ 聖則 具美

あつた

あつた夜のいづれをさへぬれ 不住

あつた夜のいづれをさへぬれ 東霞

あつた夜のいづれをさへぬれ 花陽

あつた

あつた夜のいづれをさへぬれ 詩丈

蛤も啼く 水底のこもくん 三喬

砧 蓑水

まき風 母たつこるやまの砧 一色

三日有らるゝ 一色 眞子

まき新ハ 移ちれてさるゝ 一色 彦支

田のあゝのいく 雲出てまて 秋の川 不佳

鴉 野

移ちゆくや 谷のうらら 移ちける 菅六

山の口 移ちゆくや 野の良 鴉好

小舟ゆく 火のこくろり 野の色 菅六

菊

菊の鶴 ありあゝ 色 若かりし 松舟

ゆらゆらと 守るもの 所 菊の心 芥和

もきおろす 又あうとも せん 菊の心 几瓊

と葉ひと 白丸とくつれ せ 旭さん 芥和

柴の戸の 秋し 見し まくの 花 アチ 春枝

后月

破レ戸も さくはと ちり ぼのこ 千和

はく山の 音ハ 去り けて ぼの月 廿一 千枝

あまふ

老女より来へーお家のあつハ
くけろわとらんやあまふらう煙
夕くれの尾毛又つくやむらあま
撫ふふ又撰すてーお家のあつハ
まを山のまよまきれぬとちが
千里駒
几務
詩夫
聖齡
几務

冬夜

正月の夜月くおとらあつハ
まきおや猪舟と見へて火の跡る
月あつりのすこまの戸やあつハ
ふとあまあつらうとあつハ
晋和
青化
後中
あま井
菟和

砦

小松砦おらまこれる木とあつハ
茅の屋の砦やまれも所拍子
山陰ハるまあつらあまあつハ
萬利
奇調
几務

推

小面ーやまあつら推らしと
凡おくもしとまていぬ推の面
南賓
桃吏

あまあつ

あまー七やあつらあまあつハ
あまあつやあまあつらあまあつハ
萬利
太柏

草拈

草かりや思ひあるりて心養ふは 八子 吾拈

いこー

籟引声やゆふ山吹きくる 芥和

うー枯

月をよ吟をいけはうー枯る 聖齡

表枯やふもとさつき月吹 季成

うー枯の夜や久くの月とる 晋和

うー枯る世や云やくと吹旭 文和

うー枯や日影拈くる帆のこゆる 華陽

花拈

辨とりの春よもーるふゆうれ 蝶野

時しくハタ湖こゆる玉路か 芥和

花の系物よりうへゆるもーる 琴春

砧 芦花

おなりうーる芒の春もきぬうれ 古川

ゆー萩のささる砧のり灯う分 羅生

山水を中一の砧とさぬうれ 晋和

おまめであきうーるやう砧 高吟

あーの死人執るうーる言るる 庶拈

つみ おろき

月神ツキガミのまはるまはるのまはるまはるのまはるまはる 太拍

つみ川ツミカハのおのれおのれ腕うでをままりりたた ヤマト 一升

つみツミのの妙たみよよこの入いねねああがが 天虫

菊 ももち

承ウケくくすすままささええ珠たまのの名な アハ 梅子

ああののききのの山やまのの日ひわわかか 香頂

乃のちちののららふふままままののややみみああまま 三考

ううのの枯

ううのの枯かのの木きののららふふののゆゆのの荒あらい 芥扣

萩

咲さけけのの日ひももももりりのの多たくくてて萩はぎののもも 朗光

麻

かかののままのの長ながののままのの麻あしのの夢ゆめ 友薙

麻あしののややのの秋あきのの雨あめののままののまま 栞里

ううののままののややのの月つきのの秋あきのの白しろののままののまま 朗光

つみ子

つみツミののままののままののままののままののままののままののまま 探子

菊月

ううののままののままののままののままののままののままののままののまま 朗光

后籬

后のつらき花とては来よりありたり

太拍

柿

丸のほくちやふ柿ひとり風のそし

高草

本実

飛木のまきさある肌てもなまきあは

大ツカ 鼠堂

刈秋

きぬ秋をともえも中へ侍山のまき

朗光

刈秋やソのぬぬまそあよろうる

梅里

冬の色

川野

志とれ今やうらむをともふま猿り養
厂野の空とちやいしん物しとれ
小雀啼は来う濡とともしめくれ
おろかしてあけや志くらし枯の扁
うねのほをえせて来はむ志くれ
田うらりしうねとふいふ一時のれ
葉のむちもむらむらして志くれ
さとうせきとさるももえは枯柳
埋せしやうらむらむらむらむら
月雪中に純も身よもいしとる

香もあら申国のみまもに新庵
 しくともほや友まの雪の之
 かしまの世も人も道も一音に候
 岸恒の月もあはさけ音吹あれ
 月影の昏も八社ハあまやま
 吹ひくもあまよふたけぬ日影も菊
 鐘のあまをよした町中久宝寺
 ちろくきくとあまもあまきくゆも
 右暦あつ又三日あまのま
 年内立妻
 本一毎一し日く真まね年の内



床垣も不意に六丁に袖しけれ
 小夜しれ道八枝まき母もひれ
 於森を依
 伊藤
 ちかまをいれいし初原守 奇文
 おもひハ藤より又 崎里
 まいりしるのこ
 風筋の竹よりさうと
 氷柱の於遊多
 ちかまをいれいし初原守 奇文
 おもひハ藤より又 崎里
 まいりしるのこ



横吹 天画
 昌 風古

女心

人さしなり都をそ何せん
 ちかまをいれいし初原守 奇文
 おもひハ藤より又 崎里
 まいりしるのこ
 風筋の竹よりさうと
 氷柱の於遊多
 ちかまをいれいし初原守 奇文
 おもひハ藤より又 崎里
 まいりしるのこ



女心

若くは

追は
まら白

こゝろを

如鳥

の

野

の

あ

は

ひ

中



和

と

晋和

初

在

と

光泰

い

田

三喬

赤

篤六

る

家享

山

詩大

夷漢

牛と虎の光りつらつらとくまひきき縛 竹雄

枇杷の花

炉に添ふそまほる目し枇杷の花 閑良

いつこの日二日ありむつらふ心 其馬

白き花の咲く時や枇杷の花 雲が 梵徳

うららかなる水は笑ひつゝの巻 文友

物事のせぬも松もも枇杷の花 子 子舎

子も教もりていふも水も枇杷の巻 笹葉

鈴の響きもつらつらとくまひきき縛 祇白

枇杷

月あかりあふふふ 庵の畑 羅堂

門らやともも世をわじく松子 蘿外

うけも横か けりてくまひきき縛 其友

そとからり

まらぬ手に花とくまひきき縛 晋和

蓄蓄新うらつらとくまひきき縛 化侏

題

やま風やそを焚きしも縛のり 牛父

あまも

らんそやとくまひきき縛 梵徳

水もあつたおのころはあつた
あつたの中ふらふらふらあつた

貞子
藤介

改中

改中
改中
改中
改中
改中

馬六
田良
其馬

聖書

聖書
聖書
聖書
聖書
聖書

左学
馬六
逸史

附函 十夜

附函
附函
附函
附函
附函

松舟

松舟
松舟
松舟
松舟
松舟

松舟

可秀

可秀
可秀
可秀
可秀
可秀

吾終

吾終
吾終
吾終
吾終
吾終

几礎

几礎
几礎
几礎
几礎
几礎

甫實

甫實
甫實
甫實
甫實
甫實

牛父

牛父
牛父
牛父
牛父
牛父

三考

三考
三考
三考
三考
三考

如夢

如夢
如夢
如夢
如夢
如夢

ア子

及愚

枯のまの光るあも十あふ

枯中 旧葱

小春 枯母

冬烟の菽あふりすり小春あふ

東厚

あふそいもあふめて小春のまの馬

雷音

凡のまのや枯母を走る月

旧葱

春と枯ふ細や枯母のまの山家

吾吟

あふあふりすり枯母のあふむ

几務

月さく吹や枯のく軒あふむ

嘉友

あふあふの水のまの枯のま

子雄

枯の母の枯又まのあふりあふ

祿寛

冊はがれて枯又心のうらりる

五朗

改心 冬冬鏡

秋うらも枯てふり木やゆりも

芥和

一日うらもあふあふやうらりる

志也

暗あふの垣あふりしるゆりる

銭翁

山吹のまのあふあふりるゆりる

雫藤

海のまのうねる日るやゆりる

千枝

うらあふ一及つや非の中

笛三

只の日のくもる所さうらりる

友酸

明日のまのあふあふりる冬冬鏡

和翠

霸王樹又旭をくみけて冬こもす アハチ 芦汀

風 水鳥

木うししよせぬ日ハあつて山のま 音岩

風の斤よせもあつた淡路 几懸

松の戸や風よあを森し 東厚

水多や柳ハ 千枝

炭 表

ま 倚丈

海をくま 晋和

伝や 友破

十月

十 引田 廣秀

小妻

山 ヒロセ 如竹

風

香 比健

ころ 志月

枯叶

枯 縁終再

枯 、

あまのつらつらと枯るなり 一枝
まじも枯るなり 一卦

五月

うすひらりたるもあまのつらつらと枯るなり 志也

山茶花

さくんもやうもとるもあまのつらつらと枯るなり

あまのつらつら

あまのつらつらと枯るなり 朗光

かこ子

かこ子とるなり 以健

初巻

あまのつらつらと枯るなり 如竹

あまのつらつらと枯るなり 秘眼改洋字

あまのつらつら

あまのつらつらと枯るなり 軍

五月

あまのつらつらと枯るなり 若薙

あまのつらつらと枯るなり 以健

五月

あまのつらつらと枯るなり 太柏

雪

星をくし雪より川を流るる
朗光
雪のふる松山こしとて小椀灯
一枝

十夜 冬拈

我老ハかく寸影多ふ十夜廿
石橋
丁ノ鴨よ小盤あしして廿ハくれぬ
三驛
冬拈ぬあししておほくし
如藁

梅の子 鴨

梅人くしあしとせしうりむ
志也
いつのふる鴨ハ梅をよあたる
如藁

梅をたき

おやこしとせし鴨の毛もふるる
梅の香
梅火をたきや古き梅乃山をりし
一貫

子系 室色

子まりののりふる小松うね
文門
ふかやまや月をみる
雨良
ふかやまや梅木の上は月と肉
其鳥

粟 氷柱

ここの雪ふりおくし
園彦
くれうけてあしとせし小松系
是松

扱の... 文門

子... 李任

お... 鹿村

... 三和

... 朗光

... 化俵

... 光春

... 吞鳥

水仙葱

... 島村

... 采丸

... 山峯

子會

... 子會

新

... 是松

脯八年筆

... 柳下亭

... 明石 榎馬

... 笹葉

孟宗竹

雪つそりて人うけたりや孟宗竹 可卜

冬 竹

富たちりしつゆ花ハれし冬竹 祇白

咲きしつゆをても久しきつをき 朗光

目のまじりてはるも妹し冬竹 全

枇杷の葉にちりて咲き冬竹 羅維堂

咲そめし日まじりし冬竹 下市 志子久母

冬 竹

むらさきのすそにちりし冬竹 祇白

冬至 雪

うめ枝ちりて冬も雪ふり 芦汀

吹るしやきふの枝り冬竹 雪 齋

木の葉ちりて冬も雪ふり 一 風

乃ありしもち咲ゆり冬竹 三考

ひとしきりし冬も雪ふり 晋和

色かれてちりし冬竹 野雀

浮空のかゝりし冬竹 几 籠

落葉 冬 竹

一 おきのちりし冬竹 吠犬

灰白のまきひつらひのむらさき

蝶舞

新緑のしるしやなごのあはれ

若翁

るさく今日のまきくみ

南賓

系凡をまひりし日く里かき

千和

尚 霜

木の芽や日の向うも雪千も

芥和

霜入のまきれてくくし

千和

氷 彌代也

もるもの小松ゆきやまの若

若汀

こやしとあはれはなほ

若翁

凡ゆるり千もく

志也

彌代もるく松風もるく

若汀

冬月 冬雨

あすこのつらハ出て

巴人

志のぬのね

志也

吹形又芒ハ

埃簞

るの藤る木

千和

師走 寒サ

海山よ

千和

葉を割て

若翁

鹿人とてきも出てあり師き山 青化

指すやいほをちうぬそ山のかく 埴簞

ちらちりとて四の歩らふおまううぬ 埴里

葉天のさすや船のいまひまう 桂里

身おつよぬ一まうのほむさう 几鏡

又梅 年志

梅をよみ編のこころや秋のそ 芥和

又梅や月はいまうう十一日 三考

ちや梅や何らのちうあゆめ 玉莖

月をやぬ又ゆりれてる自志 和藁

雪 冬誌

後をよおもひゆきぬ山ゆぐお 一枝

ちやちやのこころありやり馬 名整

る月のおさうり月ておのち 方言

時のさの灯ハきくはあれ雪の物 一技

ちのあハゆて有やうまのあし 如藁

又しゆ終あらしの衣きうあゆめ 如藁

糸糸 体叩

四つくんのまがふ年し里糸糸 方言

ほれくまやまの岸くま 一枝

水仙

ささる日のおしもつらんあゆむ

志母

水仙や月のなほまはるりもせん

羅文

ぬ走 子母分

月とささる月とささる月とささる

志母

月とささる月とささる月とささる

ささるの夢もくくくあよ 畑の雀

万言

妹拂 大廿日

あやうく人も括くささるくすく拂

妹居

雀あける 括ハ太一 大三十日

浪華書舗岡田種玉堂藏版書目

神代卷

全二冊 同 頭書

全二冊

同 正訓

稿本指彦著 近刻

全三冊 神代紀葦芽

本居大人校正

全三冊

校正古語拾遺

齋部廣成著

全一冊

古語拾遺言餘鈔

全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社終 事等
古法ヲトコウレナヒ事ドモヲ言セ
書ナリ其本書ニウタガハレキモノヲ明辨
訳釈シテサトシタルヲ言餘鈔ト云

此書ハ遠州土萬侶先生ノ著述ニシテ賀茂
真淵本居宣長両大人ノ正説ニモトヅキ
古ノ訓点ニ復シ古義ヲサトシタル書ニテ
古字ニモトヅクニ便リヨキ書ナリサレバ古
学ニ入ル人先此書ニ因テ神代紀ヲ解スベシ

天の真柱

全一冊

外國ニアラユル天地ノ説ヲ皇國ノ古傳説
ニ考合セタル書ニテ神代考ト共ニテラレ
見レバ古学ノ基マタ他ニ出ルナシ

古語拾遺句解

全二冊

古語拾遺示蒙節解 全四冊

冠辭考 賀茂真淵大人著 全十冊

此書ハ和歌の枕詞をわきま五七音に
次第して位叙せり

同 續貂 上田秋成大人著 全七冊

冠辭考小まればとありぬ位叙と加ふ

掌中冠辭例 全一冊

右の二書より要語と抜粋して出せり

紫式部日記謗註 壺井義知著 全二冊

此書ハ紫式部の意圖并日記のつづきの
圖と別して和文のつづきを注釈と加ふ

日本紀の御局注考 松の屋大人著 全一冊

紫式部と日本紀の御局といひし名を
のぞく源氏物語のつづきを注釈と加ふ

紫女七論 安藤為章先生著 全一冊

源氏新釋摠考 賀茂真淵大人著 全一冊

此二書ハ源氏物語の大まことのつづき
式部の方由りて紫式部と名する意圖
と出づる源氏物語のつづきを注釈と
よむ人のつづきを注釈と

枕草紙傍註 全十冊

松の屋文集 藤井大人著 全二冊

枕詞補註 尾崎雅嘉大人著 全二冊

此書ハ枕詞のつづきを用ひる意圖と
枕詞のつづきを用ひる意圖と
枕詞のつづきを用ひる意圖と
枕詞のつづきを用ひる意圖と

和歌虚詞考 加藤景範著 全二冊

増補和歌明題部類 小本 全二冊

同 續 小本 全一冊

増補和歌組題集 合刻小本 全二冊

名所部類考

古今類句 山本春正著 全三十四冊

廿一代集と和歌集の類句と四句
目の改定とていろはにけりし
古多探意乃全書也

國意考 賀茂真淵翁著 全一冊

皇國古今のつづきを考へて
皇國のつづきを考へて
皇國のつづきを考へて

古來風體鈔 全五冊

此書ハ五條三位後成卿乃作し
文之つづきを考へて
文之つづきを考へて

おんまゝの鴈

松の屋藤井大人著 全一冊

月次書等の消息文やうららの
せしむるにうららしてまよふ係
うららうららうららうらら

佐喜艸

右同著 全一冊

あはれうららの得うららうらら
かきやうららの得うららうらら

消息文例

右同著 全二冊

せしむるにうららうららうらら
河の得うららうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら

伊勢物語新釋

右同著 全六冊

あはれうららの得うららうらら
先釈の是非と後ト新うらら考と
うららうららうららうらら

大袂後釋

右同著 全二冊

消息文梯

蓮阿大人著 小本全一冊

消息文例の中うららうらら
うららうららうららうらら
席上の便利うららうらら

方丈記流水抄

鴨長明 全二冊

古今俳諧明題集

涼風子撰 全五冊

萬葉集類葉抄

村上潔夫輯 小本全二冊

萬葉集のうららうららうらら
叶本も歌人傳並雜と歌教とをらら
うららうららうららうらら

同 類聚抄

右同撰 全二冊

類聚抄のうららうららうらら
みづうららうららうらら
振うららうららうらら

同 二聖集

石津亮澄著 全一冊

万葉集のうららうららうらら
まゝに九歌集のうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら

うらら草紙

木下幸文大人著 全三冊

は書はうららうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら
うららうららうららうらら

細川幽齋聞書

全二冊

同 聞書全集

全三冊

無名抄

鴨長明 全二冊

樗良七部集

全二冊

俳諧心くろ喰

全二冊

此書ハ貞徳鬼貫其角嵐雪と和の
法蘭の各の宗匠家の發句五千餘
句と題題のくろ喰句他の足合せ
出凡句較多餘のくろ喰小集の区

同 十家類題集

全五冊

八千房宗匠編輯して故人芭蕉翁の
初め其角嵐雪と和の宗匠家の發句
泰山希園善村ホ十家の發句集なり

同 新十家發句集

全四冊

此書は徵して月居荃乳成定春道長
升六と例の二撰也士朗ホと無十家乃
當の流り仲の發句と和のくろ喰

發句新五子稿

全二冊

此書ハ太沢善村青菴岐子園文五家
の發句と和のくろ喰句として集む

俳諧發句題葉集

小本 全五冊

黄花菴升六著四巻の發句と十二月より
自毎の句と較多の和の句ハ神祇和歌
球球送家畫發句と和の句及法蘭
高名家の玉吟と和のくろ喰句と

同 近世發句類題集

全四冊

此書ハ尚の近世名家の發句と和のくろ喰
あり多し四巻のけの較多の和の句
と和の流り發句の和の句と和のくろ喰
此書ハ小集のくろ喰

俳諧今様發句集

八日菴万和齋 小本全二冊

今時流の名家の發句と和のくろ喰
句とくろ喰の撰びたる四巻の發句集なり

古文眞寶後集

筱崎先生頭書評註 新刻 全二冊

同

無点再版

全二冊

古註 大成四書字引

小本 全一冊

四書字引アマアリトイハ古註新註
ノセンサク委シキハ此書ニオヨブモノナ
実ニ四書字引ノ大成ナルモノナリ

弁非

春臺先生著 全二冊

此書ハ詩文儒門ノ是非ヲ論ジタル書ナリ

俳諧四季併題櫻田

花屋菴奇洲撰 全二冊

日本紀竟宴歌集

全二冊

虞書新志

唐本翻刻 全八冊

隸續

同

全四冊

兩漢晉魏ノ間ノ碑碣石經ノタダヒ其外刀
鏡鼎類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツム

五代史

同

全十五冊

潜夫論

同

全五冊

後漢ノ王符著述ニシテツノ時代ノ得失ノ
ノレル所ナリスベテ三十五篇ナリ

和楷正訛

春臺先生著

全一冊

楷書ノ誤ヲ正スニ坐右ニオキテ探索速ナリ

文論詩論

右同著

全二冊

譯文要訣

全一冊

同 附録

白石蘭合刻

全一冊

東郊先生文集

全五冊

茶山集

宋 曾幾著

全四冊

此書ハ南宋陸放翁ノ師茶山曾幾先生ノ詩集武英殿聚珍板ヲ翻刻シ東武栢如亭先生ノ校正ヲクハタル宋詩集ナリ

開口新話

全一冊

批點檀弓

全一冊

西京雜記

全一冊

作文初問

周南先生撰
南郭先生考訂

全一冊

歷世文章ノ風調古人文趣ノ異同ヲ論シ法格ヲ舉テ曉シ易ク又實ニ作文楷梯ノ書也

高士傳

唐本翻刻

全三冊

明詩礎

小本

全一冊

同 續

全一冊

蘭科刺血篇

全一冊

醫斷

吉益先生著

全一冊

醫事感問

右同著

全二冊

此書ハ病疾ヨリテ醫ヲ求ル服薬スル心得的醫ノ醫業ヲ知ルコトヲ論シ平假名ニテヤトシタル人家重宝ノ書ナリ此書ヲ見テ後醫ヲ求ムルトキハスミヤカニ治ヲ得ベシ

易道撥亂

春臺先生著

全一冊

同 辨

太宰東郭先生著

全一冊

易占要略

春臺先生著

全一冊

物類品隲

全六冊

此書ハ平賀旭溪先生ノ著述ニシテ草木金石水土穀果虫魚鳥獸等ノ真偽ヲ辨シ漢土産物寫生ノ圖アリ附録ニ人參培養法砂糖製造ノ圖解マデクハシクアラハシ其外物産家ノ骨繼ノ事トモソアマタセンサクシタル書ニシテ東都諸先生ノ校合實ニ物産ノ書ニオイテ是ニナラブモノナリ

斷易早合点

全二冊

此書ハ諸ノ占法ニ益アルモノヲトリ初心トイヘドモ知リヤスク覺エヨキニ書トリ書物ヲモタズシテ周易占考ヲ知ルノ極意ヲシルス

經典餘師

漢百年先生著

全七冊

先生諺解數部アリ大ニ世ニ行ハレテ人ノ貴宝スル所タリ今刺ストコロノ易經ハ只意義ヲ發明スル、ミナラズト筮ヲ作ス人モ此ニ就テ字バ大ニ判断ノ助トナルカナドキ第一ノ秘冊也

大雅堂畫法

全三冊

梅道人墨竹譜

全一冊

霞亭涉筆

北條子讓著

全一冊

此書八種ノ異聞嘉話ヲ集録シタ筆記也

論語筆解

唐韓愈著

全一冊

和漢年代覽要

懷中本

全一冊

年号ノ目字ヲ小ロニ出シ操出スニ至 早ク和漢ヲ互見シ年表事實ヲ委シク記ス

近江國大繪圖

一鋪

播磨國大繪圖

一鋪

攝津國大繪圖

一鋪

右圖各神社佛閣名所旧跡山川古城郡村宿次御城下陣屋道法方角往還舟路名物産物等微細ニ記シタル大繪圖ナリコノ圖ヲ熟覽シテ以テ旅行セバワノ心ザストコロ村老ヲマタズシテ遠ナリ

棲碧山人百絶

讀收庵漢先生著

全一冊

黃葉夕陽村舍詩

菅茶山先生著

二編 全四冊

驥蝨日記

全一冊

此書八管茶山河崎敬軒兩先生ノ東海道紀行應酬ノ詩集ニシテ附スルニ鵬齋茶山西先生東都日本橋上ニテ邂逅ノ詩アリ其外奇事頗多シ

歸省詩囊

北條霞亭先生著

合刻 全一冊

微山三觀

名ケテ霞亭三稿ト云

嵯峨樵歌

右同著

全一冊

詩學新論

全三冊

近人小詩

栖碧先生

全二冊

菅茶山寛齋大窪詩佛池五山柏如亭北條霞亭ノ諸先生ヲハジメ其外名賢詩アマタアリ求メテ四方ノ英傑ヲ知リタマフベシ

風牀小詩

備中風牀上人著作

全一冊

刪補衆方規矩

北山先生著

全四冊

熊志

熊膽製方真偽明辨圖解

全一冊

腫脹要訣

全一冊

内科撰要

宇田川玄隨先生著

全十八冊

此書ハ和蘭傳來内治方ノ醫書ニシテ和漢古今ノ醫書ニモ載セザル妙論奇方ヲアツタアツタ本數書ヲ翻譯スル所ナリ和蘭ノ醫書アマアリトイヘバ多クハ外科ノ書ノミニシテ内治ノ醫書ヲ上梓スル此書ヲ以テ原始トスベシ實ニ古今未發ノ珍書ナリ此書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコストキハ如何ナル疾病タリトイヘバ回生起死ノ術ヲホドコスベシ

金匱妙藥選

全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙藥祕方ヲエラビ素人ニテモ療治ヲ得ル藥方アマタ出ス

蘭畹摘芳

仙臺大親先生著

全三冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フ所ノ藥品草木生類スベテ生真ニテハ得ガタキモノヲ篤クセンサクシ麝香榔檀ノ類種ノメヅニシキ品類ヲ寫生ニ図ヲアラハシ和漢ノ諸説ヲ舉テ明辨シタル書ニシテ醫家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ載シテ大ニ益アリ本草類書アマアリトイヘバ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトシキ古今未曾有ノ善本ナリ

脚氣方論

村菴先生撰

全三冊

凡カフテノ諸症甚多シ庶工漫ニ治ラシテ人命憊ラテ先生深ク歎キ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ニ見テ治驗ヲ速ニ得ルヲ辨シタル救世ノ書ナリ

貴人帖

廣澤先生書

全一冊

大橋俚語十字文

明浦先生

全三冊

烏石成肅公碑

楷書大字石搨

全一冊

無幻春霞帖

石搨

全一冊

菖蒲浦賀

尊圓親王御真筆
詩歌御手本

全一冊

淺瀬の志

松屋大人作

全一冊

尊圓庭訓往來

全一冊

此書ハ世小叔板房ノトシドモ大伴仍去多ク予カ菖板の形ハ其等トアリハハ書終ニテハ世上ヲ双の跡ナリ

當流字盡小謠

頭書 全一冊
商賣往來入

大坂書林

心齋橋通北久太良町北入

河内屋儀助

消閑雜記

一時軒惟中隨筆
八日菴萬和宗匠閱

全部二冊

わすを随筆に書數多しと云ふもまゝハ作者の好むは
かよふに諸家に在りてあるに今此書ハ詩歌連體文
章經學佛學雜法といふ法を以て著し有益の事説を輯
録し解しがごとく知るがごとく記すは其の旨なり
して實に法君子有徳博識の名を以て著すは其の旨なり

